

Bible Study



永遠の命を得て、エホバ神
と共に生きつつけるために

あかちゃん

存在するものの起源



存在するものの起源を考えると、大きく分けると二種類のことを考慮しなければなりません。一つはコンピューターや家や自動車など人間が作り出したものについてその製作者が明確にわかる存在のことです。

他の一つは自然や人間をふくめ宇宙にある人間が作り出したものではない存在のことです。後者の存在にもその始まりがあるならばその原因をかんがえるとき、単なる偶然も永遠の存在も正確な答えとはなりません。

諸科学の進歩に伴いそれらに対する知識が深まるとともに、その複雑な仕組みは人間の作り出したものよりはるかに高度の理知を認めることができるようになりました。(*1)

その永遠の理知ある存在者を神と呼ぶとしても多くの人にはその人格者についての詳細は自動的に得られません。

理知のある創造者がおられるならば、被造物である人間にその意思を伝達する手段を持っていると考えるのは当然ですし、人間の抱える諸問題(「人生の意味、苦しみの存在、人類の将来」など)を答えてくれると期待してよいでしょう。

人類史を通じて最も広く頒布され多くの人に読めるように翻訳されている聖書こそ真の神の言葉であることを実証された書物として受け入れることができます。

皮肉なことにその書物は存続そのものが危ぶまれるほど反対を受けながら今日まで生き残った書物であるとともに、その内容も多くの人の勝手な解釈や偽りの教えに用いられてきました。

しかし偏見なくその言葉を自分の手で読み調べるならば、その真実さを読者は確信することでしょう。

神ご自身も崇拝は強制していませんし、神を崇拝することも崇拝しないことも本人の自由です。

但しその結果は自由には責任が伴いますので本人が負うものとなります。(*2)

しかし神の存在をまず知らなければ、どうして神を崇拝することができるのでしょうか。

神を知っていると唱える人でさえその行ないにおいて神を否認している場合もあるのです。

ある人にとっては性的な快楽が、物質的富や地位が、さらには自分自身が崇拝の対象となるという状況ですから非常に混乱しています。

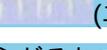
このページが読者の見方を少しでも神の存在に気づく助けになればと思い、作成いたしました。



(*1) ローマ1:20 「というのは、[神]の見えない[特質]、すなわち、そのとこしえの力と神聖とは、造られた物を通して認められるので、世界の創造以来明らかに見えるからであり、それゆえ彼らは言い訳ができません。」

(*2) 創世記2:16,17 「16 また、 (エホバ) 神は人に命令を与えてこう言われた。『園のすべての木から、あなたは満ち足りるまで食べてよい。17 しかし、善悪の知識の木については、あなたはそれから食べてはならない。それから食べる日にあなたは必ず死ぬからである』。」

解説 : この記述について正確なことを知らない人は、神が人間の性行為を禁じたと理解しているようですが、それは間違いです。男性と女性に造り創世記1:28には「子を生んで多くなり、」と祝福しているのに、しかもそれぞれに生殖器官を与えておられる方がそのような矛盾した命令を与えるわけがありません。この記述はむしろ簡単な命令により神の支配権に二人が従順であるかのテストにすぎません。その実に毒があったわけでも、ほかに食べるものがなかったわけでもなく、神を愛し従うなら非常に簡単な命令でした。それを守れないアダムとエバに問題があったとしか言えません。

申命記30:15-18前半「15 見なさい、わたしは今日、あなたの前に命と善を、そして死と悪とを置く。16 [もしあなたが、]わたしが今日命じている[あなたの神  (エホバ)のおきてに聴き従って] あなたの神  (エホバ)を愛し、その道を歩んでそのおきてと法令と司法上の定めとを守るなら、そのときあなたは必ず生きつづけて、数多くなり、あなたの神  (エホバ)も、あなたが行って取得する地で必ずあなたを祝福してくださるのである。17 しかし、もしあなたの心がそれで行き、あなたが聴き従わないでまさにたぶらかされ、他の神々に身をかがめてこれに仕えることがあれば、18 わたしは今日はっきり告げておくが、あなた方は必ず滅び尽きることになる。』



In the beginning God created the heavens and the earth.

初めに神は天と地を創造された。(創世記1:1)

創世記はモーセに  (エホバ)(*)神が靈感を与えて書かせた書物で、荒野において西暦前1513年に書き終えられました。

「初めに」から西暦前1657年までの期間を扱っています。この後に続く創世記1:2-1:31の記述は神が地球を人間の住みかとして整えていく順番が、その当時の人々にも理解できる言葉で実に見事に明らかにされています。創造の六つの「日」について正確なことを知らない人は、一日を文字通りの24時間と解釈して聖書の記述は非科学的だとよく非難します。聖書は創造の一日を24時間であるとは述べていません。むしろ他の聖句と照らし合わせて幾千年も及ぶ長い期間を表わしていることが理解できます。(参照:創世記2:4。ペテロ第二3:8。ヘブライ4:4-6)

「初めに」から理解できること

被造物には当然存在の始まりがありました。それはまた時間の概念を想起させるものでもあります。

存在のはじめがない存在は唯一人  だけです。(参照1)

いまはまだ有限な時間しか生きられない人間にとって永遠を理解するのは困難かもしれませんが、詳細について理解できないとしても受け入れることができない内容ではありません。(参照2)

聖書のヨハネ4:24には「『神は霊であられるので、神を崇拝する者も霊と真理をもって崇拝しなければなりません。』」とイエスがサマリア人の女性に語る言葉が述べられています。

同様にコリント第一15:40,41にも「40 そして、天的な体と地的な体があります。しかし、天的な体の栄光は一つの種類であり、地的な体の[栄光]は別の種類です。41 太陽の栄光は一つの種類であり、月の栄光はまた別の種類であり、星の栄光はまた別です。事実、星は他の星と栄光の点で異なります。」とパウロも指摘しています。

人間は自分の培った経験や知識でしか物事を判断したり理解したりできませんので、それを超えた部分についてはすぐに受け入れられないものです。

しかし、創造者の存在が諸事実により明らかになり、その人格的存在が理解できるようになると、実体としての霊的な体があることや、居住する場所を天と呼ぶことなどを聖書から理解できるようになります。

人間が先に存在するのでなく、神がとこしえから存在することを理解すれば、おのずと発想の逆転がおこるわけです。不完全で限界のある人間の経験や知識ですべてのことを判断するのでなく、永遠に存在する神の知恵に頼ることの賢明さが理解できるようになるでしょう。

例えば列王第一8:39でソロモンは「『あなたが天から、すなわちあなたの住まわれる定まった場所からお聞きになり、そして許し、行動して、各々にそのすべての道にしたがってお与えくだ

さい。あなたはその心をご存じだからです。(ただあなただけが、すべての人間の子の心をよく知っておられるのです。)]」と神の天の住まいについて言及しています。

また創世記1:26,27には「26 次いで神は言われた、『わたしたちの像に、わたしたちと似た様に人を造り、彼らに海の魚と天の飛ぶ生き物と家畜と全地と地の上を動くあらゆる動く生き物を服従させよう』。27 そうして神は人をご自分の像に創造してゆき、神の像にこれを創造された。男性と女性にこれを創造された。」と述べられています。

天について少し解説するならば、後でもできますが物質宇宙をさす天もあれば神の霊的な領域をさす天もあることを読者はご理解いただけると思います。

さらに神の像についてはその外見ということではなく、内面的な特質、つまり理知ある被造物としての存在やその霊的な特質をさしていることは言うまでもありません。さらに付け加えるならば、神の目的としたパラダイスの状態は、み使いたち(サタンや悪霊)と人間の神への反逆により現在のような悲惨な世界情勢に認められる状態になってしまったこと。ただし最終的に神はご自分の天の王国(神の王国)を通して、最初の目的を成し遂げることなどをお伝えしておきたいと思えます。

参照成句として下記のを上げておきますので、よろしければご自分で調べられるのはいかがでしょうか。

ヨハネ第一5:19には「[また、]わたしたちが神から出ており、全世界が邪悪な者[の配下]にあることを知っています。」とサタンの支配を述べています。

また伝道8:9には「わたしはこのすべてを見た。そして、人が人を支配してこれに害を及ぼした時[の間に]、日の下で行なわれたすべての業に心を用いたのであった。」とあり人間の支配の愚かさに言及しています。

ダニエル書2:44には「そして、それらの王たちの日に、天の神は決して滅びることのないひとつの王国を立てられます。そして、その王国はほかのどんな民にも渡されることはありません。それはこれらのすべての王国を打ち砕いて終わらせ、それ自体は定めのない時に至るまで続きます。」と私たちの唯一の希望、神の王国の支配のことが述べられています。

参照聖句:(参照1)※詩編90:1,2 ※啓示4:8-11

(参照2)※伝道3:1-15

「神は天と地を創造された」から理解できること

ここで述べられている「天」は物質宇宙のこと、つまり宇宙空間をさしています。ただし創世記1:6-8や2:4などに言及されるように地球の大気圏としての天、つまり「大空」を指す場合もあります。

「地」についてもさまざまな意味をもつ場合がありますが、ここで言及されているのは文字通りの惑星としての地球、つまり天もしくは空と対比される地を指しています。

創造について正確に知らない人は、悪魔の存在に疑問に思うようです。神が悪魔サタンを創造したわけではなく、創造されたみ使いの一人が自分の欲望(世の支配者や人間から崇拜されたいなど)に負けて、神に反逆した時にサタン(反抗者)そして悪魔(そしる者)となったわけです。

完全な被造物も不完全となってしまった被造物も、どちらも善も行なえれば、悪も選択できるわけです。自由な意志の行為者とはそのように造られているわけです。

聖書で言う「罪」は「**的をはずすこと**」を意味しています。神の原則を愛せば常に善を行ない続けられますし、神に従いたくないことを選択する場合は悪を行なうでしょう。(不完全な人類の罪をイエスの贖いが許す根拠になったことの詳細は別な論考で考察します)

参照聖句：創世記3章、ローマ5章、マタイ20:28、テモテ第一2:5,6、ヤコブ1:14,15等。

とこしえの過去も、また今日にも、そしてとこしえの将来においても変わらない原則はマタイ22:37-40に次のように述べられています。

「37 [イエス]は彼に言われた、『あなたは、心をこめ、魂をこめ、思いをこめてあなたの神エホバを愛さねばならない』。38 これが最大で第一のおきてです。39 第二もそれと同様であって、こうです。『あなたは隣人を自分自身のように愛さねばならない』。40 律法全体はこの二つのおきてにかかっており、預言者たちもまたそうです」。



(*) ヘブライ語聖書には6828回でてくる神ご自身の固有の名前。

ヘブライ語の四文字であるためテトラグラマトンと呼ばれる。

「**彼はならせる**」との意味をもちエホバ神は目的をもって行動する方であることを示している。



BOOK FOUR

(Psalms 90-106)

A prayer of Moses, the man of the [true] God.

[まことの]神の人、モーセの祈り。



 (Jehovah), you yourself have proved to be a real dwelling for us During generation after generation.

エホバよ、あなたは代々にわたってわたしたちのため

の真の住みかとなってくださいました。(詩編90:1)

2 Before the mountains themselves were born,

Or you proceeded to bring forth as with labor pains the earth and the productive land,

Even from time indefinite to time indefinite you are God.

山々が生まれる前から、また、あなたが地と産出的な土地を産みの苦しみによるかのように生み出される[前から]、

実に、定めのない時から定めのない時に至るまで、あなたは神です。(詩編90:2)





Chapter 3(3章)



For everything there is an appointed time, even a time for every affair under the heavens:

何事にも定められた時がある。天の下のすべての事には時がある。

2 a time for birth and a time to die; a time to plant and a time to uproot what was planted;

誕生のための時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えられたものを根こぎにするのに時がある。

3 a time to kill and a time to heal; a time to break down and a time to build;
殺すのに時があり、いやすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。

4 a time to weep and a time to laugh; a time to wail and a time to skip about;
泣くのに時があり、笑うのに時がある。泣き叫ぶのに時があり、跳び回るのに時がある。

5 a time to throw stones away and a time to bring stones together; a time to embrace and a time to keep away from embracing;

石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。抱擁するのに時があり、抱擁を控えるのに時がある。

6 a time to seek and a time to give up as lost; a time to keep and a time to throw away;

捜すのに時があり、失ったものとしてあきらめるのに時がある。保つのに時があり、捨てるのに時がある。

7 a time to rip apart and a time to sew together; a time to keep quiet and a time to speak;

引き裂くのに時があり、縫い合わせるのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。

8 a time to love and a time to hate; a time for war and a time for peace.

愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いのための時があり、平和のための時がある。

9 What advantage is there for the doer in what he is working hard at?

骨折って働いたからといって、その者にどんな益があろう。

10 I have seen the occupation that God has given to the sons of mankind in which to be occupied.

わたしは神が人間の子らに携わせようとしてお与えになった営みを見た。

11 Everything he has made pretty in its time. Even time indefinite he has put in their heart, that mankind may never find out the work that the [true] God has made from the start to the finish.

[神]はすべてのものをその時にかなって美しく造られた。定めのない時をさえ彼らの心に置き、[まことの]神の行われた業を、人間が始めから終わりまで決して見いだすことができないようにされた。

12 I have come to know that there is nothing better for them than to rejoice and to do good during one's life;

わたしは、人の生きている間に歡び、良いことをする以上に彼らにとって良いものは何もないことを、

13 and also that every man should eat and indeed drink and see good for all his hard work . It is the gift of God.

また、人はみな、食べ、まさしく飲み、そのすべての骨折りによって良いことを見るべきであるのを知るようになった。それは神の賜物なのである。

14 I have come to know that everything that the [true] God makes, it will prove to be to time indefinite. To it there is nothing to add and from it there is nothing to subtract; but the [true] God himself has made it, that people may be afraid on account of him.

わたしは、[まことの]神が造られるすべてのもの、それは定めのない時に至るまで存続することを知るようになった。それに加えるべきものは何もない。それから取り去るべきものも何もない。[まことの]神がそれを造られたのである。それは、人々が[神]のゆえに恐れるためである。

15 What has happened to be, it had already been, and what is to come to be has already proved to be; and the [true] God himself keeps seeking that which is pursued.

あったもの、それは[前から]既にあったのである。あるようになるものは既にあったのである。[まことの]神ご自身が、追われるものを自ら求めつづける。





Chapter 4(4章)



After these things I saw, and, look! an open door in heaven, and the first voice that I heard was as of a trumpet, speaking with me, saying: "Come on up here, and I shall show you the things that must take place."

これらのことの後、わたしが見ると、見よ、開かれた戸が天にあった。

そして、わたしが聞いた最初の声はラッパのようであり、[その声が]わたしと話して、「ここに上れ。必ず起きることをあなたに示そう」と言った。(啓示4:1)

2 After these things I immediately came to be in [the power of the] spirit: and, look! a throne was in its position in heaven, and there is one seated upon the throne.

これらのことの後、わたしはすぐに霊[の力]の中に入った。すると、見よ、天にひとつの座が据えてあり、そのみ座に座っておられる方がいる。(啓示4:2)

3 And the one seated is, in appearance, like a jasper stone and a precious red-colored stone, and round about the throne [there is] a rainbow like an emerald in appearance.

そして、座っておられる方は、見たところ碧玉、また赤色の宝石のようであり、み座の周りには、見たところエメラルドのような虹が[ある]。(啓示4:3)

4 And round about the throne [there are] twenty-four thrones, and upon these thrones [I saw] seated twenty-four elders dressed in white outer garments, and upon their heads golden crowns.

そして、み座の周りには二十四人の座が[あり]、それらの座には、二十四人の長老が、白い外衣をまとい、頭に黄金の冠を頂いて座っているのが[見えた]。(啓示4:4)

5 And out of the throne there are proceeding lightings and voices and thunders; and [there are] seven lamps of fire burning before the throne, and these mean the seven spirits of God.

そして、み座からは、稲妻と声と雷が出ている。また、火のともしび七つがみ座の前で燃えており、それらは神の七つの霊を表わしている。(啓示4:5)

6 And before the throne there is, as it were, a glassy sea like crystal.

And in the midst of the throne and around the throne [there are] four living creatures that are full of eyes in front and behind.

また、み座の前には、水晶に似たガラスのような海があるかのようである。

そして、み座の真ん中とみ座の周りには、前にも後ろにも目がいっぱいある四つの生き物が [いる]。(啓示4:6)

7 And the first living creature is like a lion, and the second living creature is like a young bull, and the third living creature has a face like a man's, and the fourth living creature is like a flying eagle.

そして、第一の生き物はライオンに似ており、第二の生き物は若い雄牛に似ており、第三の生き物には人間のような顔があり、第四の生き物は飛んでいる鷲に似ている。(啓示4:7)

8 And as for the four living creatures, each one of them respectively has six wings; round about and underneath they are full of eyes. And they have no rest day and night as they say: "Holy, holy, holy is  (Jehovah) God, the Almighty, who was and who is and who is coming."

また、その四つの生き物は、その各々にそれぞれ六つの翼があり、周りも下側も目でいっぱいである。そして彼らは昼も夜も休むことなくこう言う。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者なるエホバ神、かつておられ、今おられ、これから来られる方」。(啓示4:8)

9 And whenever the living creatures offer glory and honor and thanksgiving to the one seated upon the throne, the one that lives forever and ever,

そして、それらの生き物が、み座に座っておられる方、限りなく永久に生きておられるその方に、栄光と誉れと感謝をささげること、(啓示4:9)

10 the twenty-four elders fall down before the One seated upon the throne and worship the One that lives forever and ever, and they cast their crowns before the throne, saying:

二十四人の長老は、み座に座っておられる方の前にひれ伏し、限りなく永久に生きておられる方を崇拝する。そして自分たちの冠をみ座の前に投げ出して、こう言う。(啓示4:10)

11 "You are worthy,  (Jehovah), even our God, to receive the glory and the honor and the power, because you created all things, and because of your will they existed and were created."

「エホバ、わたしたちの神よ、あなたは栄光と誉れと力を受けるのにふさわしい方です。あなたはすべてのものを創造し、あなたのご意志によって[すべてのもの]は存在し、創造されたからです」。(啓示4:11)

